

令和二年度 卒業書授与式式辞

校庭の桜の蕾が膨らみ、野山が春の息吹に満ちあふれようとしている今日の良き日、多可町教育長 越川昌信様、行財政改革担当理事兼総務課長 今中孝介様、学校教育課副課長 届木豊和様のご臨席のもと、令和二年度の卒業証書授与式を執り行えますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであります。

今だ新型コロナウイルスに翻弄される日々が続く、今年もまた規模を縮小しての卒業証書授与式となりました。ただ参列いただいている皆さんはもとより、ここにはない低学年の児童も、教室にて卒業生の門出を祝ってくれていることをお伝えしておきます。

さて、杉原谷小学校を巣立つ十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。自らの力で漉き上げた地域のそして本校の伝統である杉原紙の卒業証書を手にし、皆さんの心は希望に満ちあふれていることと思います。

思い起こせば、お家の人に付き添われ心弾ませて入学した日から、六年の歳月が流れました。喜び勇み、笑顔で登校した日もあれば、お家の方に背中を押され憂鬱な気分を押さえて登校した日もあったことでしょう。そして皆さんは、多くの経験を重ね、心も体もたくましく成長を遂げてくれました。

特に令和二年度は、コロナ禍により緊急事態宣言から始まり緊急事態宣言で終わる異例の一年間となりました。その中で皆さんは、最高学年として強い精神力と忍耐力で杉原谷小学校をリードしてきました。制限された学校生活、延期や中止更には急な変更を伴った学校行事が続く中、十三人でしっかりとスクラムを組み、次々と降りかかる課題に柔軟に対応しました。その根底を流れていたのは、下級生を思う心と、感謝の気持ち、そして最高学年としての誇りです。

まずは、真夏に実施した修学旅行。猛暑の中でのマスク着用・定期的な手指消毒や検温は、皆さんにとっては窮屈で、文句の一つも言いたかったのではと思いますが、常に感謝の心で人々とふれあい、礼儀正しい行動がとれました。

また秋の運動会では、半日開催という条件の中で、自分たちのパフォーマンスを遺憾なく発揮しました。そこに、自分たちが下級生を引っ張るんだという思いと共に、全校生が満足する演技にしようと、下級生を優しく愛情を持って支援する姿が見られたのが、大変嬉しくそして頼もしく思いました。

更には、春の遠足や縦割り班活動、日々の登下校では、常に下級生を気遣いながら行動しました。皆さんのこの一年間のがんばりに心から拍手を送りたいと思います。

さて、小学校を巣立つ皆さんに、世界的に有名な家庭用電気器具メーカー「パナソニック」の創設者松下幸之助さんの言葉を贈ります。『塩の辛さ、砂糖の甘さは学問

では理解できない。だが、なめてみればすぐ分かる』勉強は絶対に大切です。ただ、塩の辛さや砂糖の甘さはいくら頭で考えたり目で見たりしてもわからないでしょう。まずは一口なめてみる。すなわち体験をすることで初めて分かることがあります、知識が深まりを増します。もちろん新しいことを始めるときは、必ず不安が伴います。しかしそれを怖がっていたら、何も進歩はありません。失敗を恐れることなくまずは事を起こしてみましょう。

皆さんのこのコロナ禍での生活ぶりは、まさに『塩の辛さ、砂糖の甘さ』を肌で感じてきた日々でした。この体験は必ずや皆さんの血や肉となり、今後の成長の糧になっていきます。次は中学校という広い世界で、もっと多くの体験を通して、大きく成長を遂げてください。

保護者の皆さまにご挨拶申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、立派に成長されましたお子様の今日の姿をご覧になり、感慨も一入のことと拝察いたします。それとともに、六年間にわたって本校教育に深いご理解とご支援を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

最後になりましたが、本日ご臨席を賜りました皆様、そしてご臨席はいただいておりますが、子どもたちを支えていただいた多くの地域の皆様には、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、新たな旅立ちの時がやってきました。伝統ある杉原谷小学校の卒業生として誇りを持ち、力強く羽ばたいてください。『強く 明るく 温かく』皆さんの更なる活躍を期待しています。

令和三年三月二十三日

多可町立杉原谷小学校長
吉田 重徳